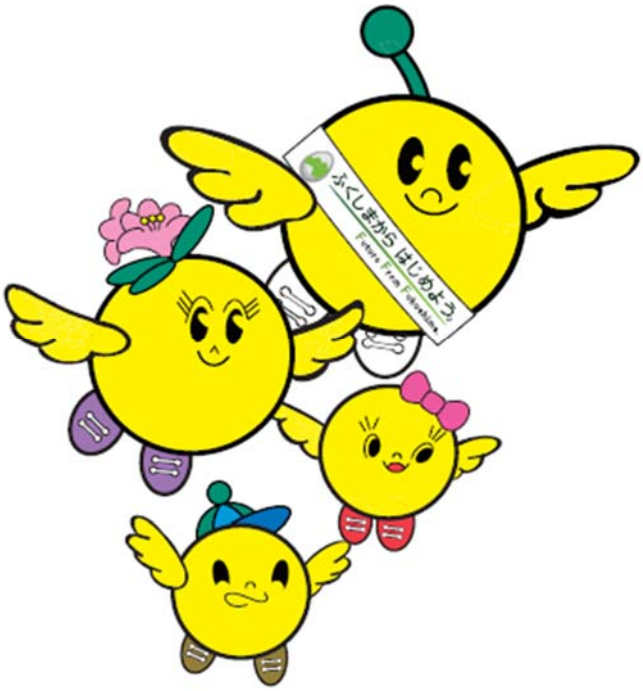
平成２９年度

ふくしまを十七字で奏でよう
絆ふれあい支援事業

～未来への　絆をつなぐ　十七字～

入賞者作品集



主催　福島県教育委員会

絆　部　門

最優秀賞

おてつだい　あわでゴシゴシ　さらあらい
ありがとう　あとでこっそり　二度洗い

白河市立白河第一小学校一年　遠藤 星吾
遠藤 いつみ

子と母

子と孫と　ひ孫にやしゃご　百一歳
思い出を　語りお香が　目にしみる

須賀川市立第一中学校三年　鈴木 彩乃
鈴木 里營

子と母

「双子なの？」聞かれて姉と 笑み交わす
「ちがいます」声がそろって また笑う

いわき市立錦中学校二年　堀田 千鶴
堀田 幸恵

妹と姉

ほんとうの 空は私の 中にある
十五歳 ずっと何かを さがしてる

いわき市立中央台北中学校三年　三戸 真凜
三戸 英一

子と父

月遠し 一人異国で 空見上げ
子の居ない 部屋の暗さと 月明かり

磐城緑蔭高等学校一年　鈴木 遥
鈴木 真理子

子と母

優　秀　賞

人前は　はずかしいよと　手をかくし
いつまでも つないでいたい 子供の手

小野町立小野新町小学校四年　吉田 僚我
吉田 裕子

子と母

じいちゃんの　ほちょうきがわり　ぼくがなる
懸命に 伝える姿に 笑みあふれ

白河市立表郷小学校二年　藤井 翔太
藤井 徹

孫と祖父

フルートの 音色を運ぶ 夏の風
基礎練の 音にも我子を 探す夏

田村市立船引中学校一年　羽生 芽以
羽生 美貴子

子と母

息子から 文字で一言 ありがとう
ありがとう 口では言えない ラインする

相馬市立中村第一中学校三年　大槻 颯汰
大槻 隆

父と子

稽古着が 色あせてゆき 強くなる
稽古着を たたむ横顔 大人びて

いわき市立内郷第一中学校一年　小林 杏
小林 利江

子と母

佳　作

ひらがなを　おぼえたぼくが　えほんよむ
田村市立美山小学校一年　志田　怜治

絵本読む　息子の声で　夢の中
志田　美幸

子と母

しかられた　だけどいえない　ごめんねを
田村市立瀬川小学校一年　松崎　海翔

寝顔見て　叱りすぎたと　手を握る
松崎　麻衣子

子と母

父の顔　うかべてつめる　おべんとう
白河市立白河第三小学校二年　戸倉　美海

ふた開けて　並ぶお菓子に　笑みこぼれ
戸倉　史倫

子と父

うれしいな　補助輪とれたよ　夏休み
三島町立三島小学校一年　二瓶　伸悟

またひとつ　できたが増えたね　一年生
二瓶　和枝

子と母

この夏は　わたしが小さな　お母さん
会津若松市立河東学園小学校小三年　大竹　優綺

病院の　天井見つめ　子を思う
大竹　美和子

子と母

いわのした　そっとてをいれ　かじかとり
南会津町立荒海小学校一年　山内　悠晟

子の下で　逃した魚　網で取り
山内　浩

子と父

ぼくもつよ　せんたくかごは　まかせてよ
いわき市立四倉小学校一年　佐藤　汐恩

孫の声　痛むひざさえ　軽くなり
佐藤　幸子

孫と祖母

ばあちゃんと　植えたじゃがいも　猿のえさ
南会津町立田島中学校三年　生亀　瑠希野

明日ほるべ　決めた翌日　いもはなし
小椋　富子

孫と祖母

夏休み　ユーフォニアムが　響く教室
大熊町立大熊中学校三年　東理　孝太

練習後　磨く金管　蝉しぐれ
佐藤　孝文

生徒と教師

のどからし　友の背中へ　声届け
会津北嶺高等学校一年　小関　龍登

君の声　どんなときでも　届いてる
会津北嶺高等学校一年　長谷川　藍莉

生徒と生徒

復興部門

最優秀賞

盆休み　家に帰れた　みんないた
大声で　はしゃぐ息子に　みな笑顔
川俣町立山木屋小学校六年　廣野　梓
廣野　陽子
子と母

風を切る　銀、緑、赤の　常磐線
初めての　改札くぐる　小さな背
南相馬市立鹿島小学校四年　鈴木　桜子
鈴木　直子
子と母

仮設跡　父と練習　再開へ
公園の　仮設跡から　笑い声
須賀川市立第一中学校一年　加藤　愛梨
加藤　喜恵
子と母

挫けずに　百まで生きると　笑う祖母
いつの日か　孫と帰るよ　故郷へ
白河市立東中学校二年　谷井　駿斗
谷井　清美
孫と祖母

被災地を　見るたび変わる　町景色
変わらない　地元の人の　あたたかさ
会津北嶺高等学校一年　植木　雅也
会津北嶺高等学校一年　岡部　愛花
生徒と生徒

優秀賞

震災時　生まれたぼくは　一年生
お腹なで　絶対守る　この命
郡山市立守山小学校一年　山田　貴翔
山田　みゆき
子と母

にいがたで　一人でひなん　がんばった
震災の　辛さをバネに　成長し
郡山市立芳山小学校四年　森　暖翔
森　恵
子と母

帰るたび　笑顔がふえる　浜じいちゃん
震災で　無くした笑顔が　今ここに
北塩原村立裏磐梯小学校六年　松本　安友武
松本　富美子
子と母

ぼくのゆめ　じいじがしてた　しごとだよ
夢語る　息子の顔に　義父の影
相馬市立桜丘小学校一年　馬場　奏多
馬場　亜紀
子と母

食卓に　ようやく戻った　福島産
手にとって　産地確認　もうしない
いわき市立三和中学校三年　小原　舜
小原　和美
子と母

佳　作

小学校　仮設といえど　わが母校
震災で　新たな出会いに　感謝した

福島市立吉井田小学校六年　大谷　来夢
大谷　香代子

子と母

しんさいの　くずれた道が　拓かれる
未来へと　つながる道が　次々と

棚倉町立棚倉小学校六年　尾崎　大晴
尾崎　幸恵

子と母

凄いでしょ　型枠大工　私の父
防波堤　作ってるんだと　誇らしげ

南相馬市立原町第三小学校四年　田中　姫楓
田中　由美子

子と母

父と行く　はまかいどうで　ランニング
父と子で　浜風をうけ　走る夏

広野町立広野小学校五年　高原　圭吾
高原　伸次

子と父

どんぐりが　ぼくらの絆　深めてる
緑地帯　海は見えぬが　命を守る

いわき市立豊間小学校六年　遠藤　暖斗
遠藤　愛

子と母

復興を　祈った植樹　背丈越す
花水木　未来へ向かって　伸びる夏

白河市立白河南中学校三年　菅原　美空
菅原　由香

子と母

震災後　人の優しさ　教えられ
その思い　いつか忘れず　恩返し

南相馬市立石神中学校二年　相良　和輝
相良　智恵

子と母

今は亡き　じいじと歩いた　浜の道
八月の　涙は海の　味がする

南相馬市立石神中学校三年　柏原　凪沙
柏原　裕子

子と母

家々に　灯るあかりは　希望の灯
不安な夜　君の笑顔が　道照らす

いわき市立中央台北中学校三年　新妻　瑞海
新妻　昌司

子と父

大好きだ　きおくに残る　あの家が
あの日々を　笑顔で語れ　ほっとした

宮城県白石市立白石第二小学校　五年　青木　環奈
青木　秀正

子と父

審査委員総評

作品のそれぞれにかけがえのない、心と言葉のキャッチボールを見つけました。言葉とは、例えるのなら楽器のトライアングルのようなものなのかもしれませんね。うまく響かせることが出来れば、すてきな心の音が相手の耳と胸に届きます。みなさんの作品に、すんだ気持ちを見つめておたがいに響き合わせている瞬間を感じました。

これからもそれを探しながら、たくさんの感動を書きとめていくことを大事にしていって下さい。

福島県立本宮高等学校教諭・詩人　和合　亮一（審査委員長）

豊かな感性を持つ人間は、揺れ動く社会変化を敏感に感じるばかりでなく相手の思いに柔軟に対応することが出来ます。

応募された各作品の根底には、みずみずしい感性がうかがわれました。何気ない日常のほほえましい光景や大人と子どものふれあいの中での感動の有様が５・７・５のリズムとともに歯切れ良く伝わってきました。

「絆」部門では、時間に追われて余裕と潤いのない現代社会において、対話から誕生したバランスのとれた１７字の表現に相互の心の絆を垣間見ることができました。読み手の心にも一陣の清涼な風を吹き込んでいただき、心が和むと同時に作品が文字でのコミュニケーションであり、交流の評価にも結びついていると感じました。

新地町教育委員会教育長　佐々木　孝司

復興部門では、震災前の姿に戻りつつある故郷の復興を喜ぶ思いや苦難を共に乗り越えてきた家族の精神面での復興が、まるで目に見える如く、また、あたかもその息吹がじかに感じられる如く、五感を鋭くして心情豊かに表現されている作品が多く見られました。また、震災後の我が子の成長と復興の姿を重ね合わせて表現し、ふくしまの未来に明るい希望をもたせ、感じさせてくれるような作品もありました。どの作品からも、心と心が醸し出すぬくもりと温かさが感じられ、これまで以上に、復興への強い思いと自信、そしてたくましさを感じとることができました。

福島県公立学校退職校長会会長　室井　君男

心の中には思いがいっぱい詰まっているのに、それを言葉にするのは難しいものです。しかし、言葉にすることは、自分の心を整理することにもつながります。また５７５の調べにのせると、すっと人の心に響きます。応募作品には、両親への感謝、祖父母をいたわる優しさ、苦難を乗り越えようとする前向きな気持ちが、日常の何気ない場面に表現されていました。５７５の手紙を受け取った家族や友達が、その思いを受け止め、５７５にのせて返すことで、二人の心が響き合い、次のステップへと昇華していくように感じました。こんなふうに心の深いところで思いを交わしている家族や友人は、案外少ないのではないでしょうか。

福島の皆さんは震災や原発事故を経験しました。今もなお避難している人がたくさんいます。家族が一緒に暮らすこと、友達と学校へ行くこと、夏休みやお正月に祖父母の家に帰省すること、お祭りが出来ること。普通なら当たり前だと思っている日常にこそ、幸せはあるのだと身を持って知っているのです。

明るい言葉や力強い言葉が多く、心の復興が確実に進んでいることを言葉を通して確信しました。

俳人　黛　まどか（特別審査委員）

＜本事業に御協賛いただいた企業・団体の皆様＞

会津中央乳業株式会社　株式会社エフエム福島
株式会社ダイユーエイト　株式会社テレビユー福島
株式会社ナカジマエレテック　株式会社福島中央テレビ
株式会社福島銀行　株式会社福島放送
株式会社福島民報社　株式会社ラジオ福島
株式会社リオンドールコーポレーション
公益社団法人福島青年会議所　東信建設工業株式会社
福島テレビ株式会社　福島トヨタ自動車株式会社
ふくしま未来農業協同組合　福島民友新聞株式会社
有限会社　吾妻印刷

（五十音順）

御協力誠にありがとうございました。

＜本事業に御後援いただいた企業・団体の皆様＞

ＮＨＫ福島放送局　株式会社エフエム福島
株式会社テレビユー福島　株式会社福島中央テレビ
株式会社福島放送　株式会社福島民報社
株式会社ラジオ福島　福島県高等学校長協会
福島県高等学校ＰＴＡ連合会　福島県公立学校退職校長会
福島県国公立幼稚園・こども園長会　福島県小学校長会
福島県私立中学高等学校協会　福島県私立幼稚園･認定こども園連合会
福島県中学校長会　福島県特別支援学校ＰＴＡ連合会
福島県ＰＴＡ連合会　福島テレビ株式会社
福島民友新聞株式会社

（五十音順）

御協力誠にありがとうございました。

＜ 問合せ先 ＞
福島県教育庁社会教育課
〒960-8688 福島市杉妻町２-１６
電話 ０２４－５２１－７７９９
FAX ０２４－５２１－７９７４
ホームページアドレス
http://www.syakai.fks.ed.jp/

発 行 日　平成３０年１月１３日